

# Rehast ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第182号

Nanae Historical  
Museum Collection

## ななえ古写真物語

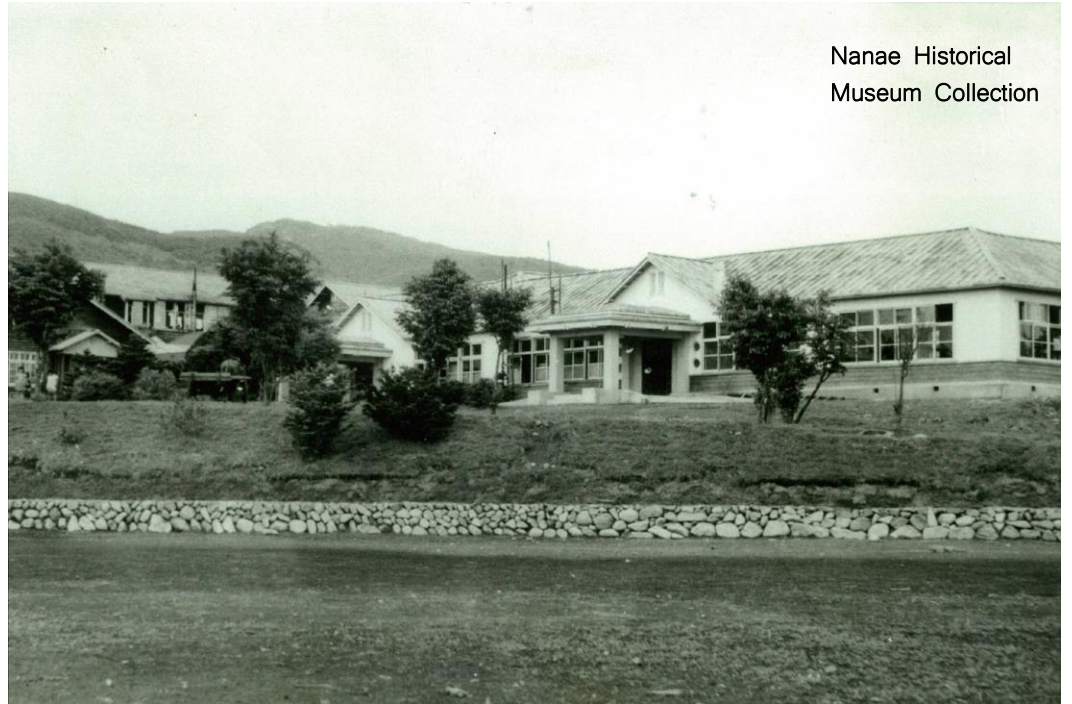
VOL.182

### 清冽溢る療養所

国立北海道第一療養所

昭和30年ころ

本町地区



「清冽溢る鳴川の 爽けき畔り豊かなる 緑の丘に新生の 生命芽生ゆる北一療、白衣に包む紅の 愛と誠の浄き灯を 暗き心の病む床に 明るく灯す北一療…」これは国立北海道第一療養所歌のフレーズである。歌の存在はともかく、七飯町に国立療養所があったことを知る人はまだ多いと思う。現在は「新ななえ病院」となっているが、ここは日中戦争が勃発した後、傷痍軍人の療養所施設の設置計画が定められ、函館の篤志家である相馬哲平からの寄付申し出があり、昭和13年11月から函館山を眼下に見下ろすこの場所に病院を設置するため整地作業が行われた。

昭和14年、初代所長に軍事保護院医官の野田信茂が任命され建物工事に着手、翌昭和15年に3月に、暖房工事などを終え、300床という収容数で開所した。時期的に太平洋戦争の真っ只中ということもあり、昭和16年に200床を増加させ500床、さらに昭和18年には300床を増加させ800床もの患者収容数となった。また、戦況が激化していく昭和17年には「傷痍軍人北海道第一療養所」と改称し、終戦後の昭和20年12月には、厚生省医務局に移管され国立北海道第一療養所と改称、一般国民を対象にした患者治療を行った。

療養所の設置に伴い設置されたのが、「准看護婦に対し、看護婦として必要な知識及び技術、態度を教育し人間性を高め応用能力を養い、広く社会に貢献し得る看護婦を育成する」ことを教育目的とする国立北海道第一療養所付属看護婦養成所であった。

この看護学校の歴史も古く、昭和20年には付属保険婦養成所を設置、昭和26年には乙種看護学院、昭和28年には准看護学院と変遷し、2002年（平成14年）3月、36名の卒業生をもって63年にわたり総数1,935名の卒業生を輩出した看護学校は、惜しまれながらも閉校となった。

「遠い地平に海は輝き 若い瞳は高原に澄むわが学園は横津のふもと いのち息吹くあすを求めて きょうをいとしむ青春が 心ひとつに相寄るところ…」とは、昭和52年に制定された国立療養所北海道第一病院付属看護学校校歌である。作曲者の佐々木茂氏は、後に七飯町町歌の作曲も手がけているが、当時の町長や教育長が看護学校の卒業式に出席された縁で、依頼が生じたと回顧している。

遠くに函館山を臨むこの七飯町から、多くの医療従事者が輩出されていたことを記憶する写真でした。

### 11日 イコン画家 山降りんの生涯を知る。

北海道近代美術館の大下氏を講師に招き、明治期の日本における最初のイコン画家として活躍した「山降りん」の生涯を、作品と共に解説して頂きました。厳格な描き方に決まりがあるイコンと宗教画の違いや、家出をしてまで画業を志した強い意志、ロシア留学の苦勞など、数奇な運命と晩年の人間味溢れる生き方には、当時の女性の自立の苦悩が窺えました。自分なりのイコンを描き続けた山降りん。「技術」としての「美術」を深く知った夜でした。



### 27日 小学校の見学が始まりました。

町内外の小学校3年生の「昔の道具しらべ」での見学は、「昔」と言っても、それを示すのがいつ頃なのか？、また所蔵している道具の中でどんなものを紹介したら興味を持ってもらえるだろうかとあれやこれやと考えます。例えば写真の「カイロ」。「冬に使う道具で、皆さんも進化したものを使ったことはあると思いますよ」と言っても元気に「眼鏡入れ!」「焚火!」と答える子も。笑いあり、感心もあり。の時間はまだまだ続きます。



### 28日 動物の痕跡を追って

この日は吹雪。それでも野鳥や動物の痕跡を探すため、ジュニア探検クラブは大沼を訪れました。20種以上の野鳥を観察するのが目標にしていたのですが、今年は水の流れがないため、湖が凍っている箇所が狭く、水鳥や猛禽類が少ない印象。しかも時折吹く雪混ざりの風というコンディションの中、双眼鏡で対岸を探したり、足元にキツネの足跡やエゾリスの足跡を見つけたりと、動物たちの息遣いを感じる時間になったのではないのでしょうか。



1	水	夜の博物館 第4夜
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	ジュニア探検クラブ
19	日	
20	月	ピチャリ第183号発行
21	火	春分の日
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

※3月の休館日はありません

#### 修復作業中です

コンテナの中は再整理中の土器。補強のための石膏を入れ、彩色を施します。根気のある地味な作業です。



#### 編集後記 ~tawagoto~

朝起きてから、出勤時までテレビを付けない生活を始めてから3年が過ぎた。家事をしながら、朝食をとりながらのお供は、専らラジオだ。朝のニュースに耳を傾ける。個人的には「目」で見る情報が瞬時にたくさん入ってくるテレビより、「耳」で聴き、想像をしながらのラジオの時間が朝の時間を豊かにしてくれる気がしている。小学生の見学で「ラジオは聴く？」の問いにほとんどが「聴かない」と答える。少しもったいないなあと思う。

## Pichari ~ピチャリ~

第182号

令和5年2月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp